

歯学部授業計画表（シラバス）の利用について

授業計画表（シラバス）は授業の目次ともいうべきものであり、その順に従って内容も細分されている。

1 回（又は複数回）の授業ごとに学習目標を提示することで、授業の概要をより詳しく把握できるようになっている。授業に対する各自の理解度を計る一助にするほか、予習・復習、授業欠席時の自習に役立てて欲しい。

●授業等は、原則として授業計画表（シラバス）に記載されているとおりに行われるが、進行上変更となる場合があるので、各科目の責任教員の指示に従うこと。

●各科目については授業基本情報として、「授業科目名」のほか「ナンバリング（※1）、期間、開講曜限、科目分類、学年、単位数」が原則として書かれている。

（※1）ナンバリングについては、下記に従って記載している。（各科目の開講年度により異なる。）

【2019 年度以降の開講科目】

ナンバリングの先頭に記載されたアルファベットは、それぞれ下記を示す。

A：教養系、B：基礎歯科医学系、C：臨床歯科医学系、D：関連医学系、E.総合歯科医学系
なお、2ケタ目は詳細な分類を表す。

※2019 年度から 2022 年度に開講された「海外英語研修」のみ、ナンバリングの先頭に記載されたアルファベットは、下記を示す。

L：一般教養系（Liberal）

【2018 年度以前の開講科目】

ナンバリングの先頭に記載されたアルファベットは、それぞれ下記を示す。

L：一般教養系（Liberal）、B：基礎歯科医学系（Basic）、C：臨床歯科医学系（Clinical）、
S：社会歯科医学系（Society）、M：関連医学系（Medical）、G：統合歯科医学系（General）

また、授業概要情報として、「一般目標、コア・カリキュラム、コーディネータあるいは責任教員、サブ・コーディネータ、実務経験のある教員による授業、指導教員、指導方法、テキスト、参考書、評価方法、評価基準」等が原則として記されている。

●授業計画詳細情報には、原則として「授業回数、日程、担当教員、大項目、中項目、小項目、学習目標、準備学習」が順に記載されている。

●2025 年度においては、科目の開講学年によって適用される歯学教育モデル・コア・カリキュラムが下記のとおり異なる。

第 1～2 学年開講科目に適用：歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）

第 3～6 学年開講科目に適用：歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）

●「一般目標」の末尾には、本学歯学部におけるディプロマ・ポリシー（以下、DP）とカリキュラム・ポリシー（以下、CP）のうち、該当する入力コードを記載している。DP、CP と入力コードの対応は、次の表に示す。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	入力コード
1. 医療人として広い教養と視野を持ち、深い洞察力和倫理感を備えている。	DP1
2. 感謝と慈愛の心を持って患者中心の医療を実施できる。	DP2
3. 一般教養ならびに基礎・臨床歯学の幅広い知識と技能を有し、歯科医療と保健指導を実践できる能力を有する。	DP3
4. 主体的な研究能力を有し、科学的知見に基づき問題点を発見し、解決できる。	DP4
5. 科学的探究心を持ち、最新の医療知識・技術の習得に努め、実践に生かすことができる。	DP5

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	入力コード
1. 基礎的教養教育 高校と大学教育の連携に配慮した初年次教育のカリキュラムとして、広い視野と洞察力を身につけるために、充実した自然科学系科目と人文科学系科目を学ぶ。また、一般教養科目と歯科医学の基礎科目、臨床科目を連携させ、歯科医師に必要な幅広い基礎知識を整理する。	CP1
2. 禅的情操教育 自己を正しく認識し、患者さんに寄り添う心を持つ人間性を育むため、宗教学や医療倫理を中心とした科目を学ぶ。また歯科医師の基本的資質を高めるために、少人数による演習、PBLにより能動的学習能力の向上も図る。	CP2
3. キャリア教育 将来の進路について考え、歯科医療へのモチベーションを向上させるため、初年次から早期体験学習で学ぶ。また応用力・課題探求力の向上を図るため、希望者においては低学年時より各講座等における研究に参画し、主体的な研究能力を育む。	CP3
4. 専門教育 基礎科目、臨床科目ともに、座学に加え、少人数グループによる実習を行い、知識と技能を能動的に身につけるカリキュラムの編成を行っている。更に診療参加型臨床実習、隣接医学の学びにより口腔を総合的に診療できる高い臨床能力を育成している。	CP4
5. 独自教育 国際交流を通じた学習により、国外における歯科医療を学び、国際的な視野を育む。	CP5

※DP・CPの詳細については、本学ホームページ(<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>)、または、『歯学部学習の手引』を参照のこと。

単位制度と学修時間

単位とは、学修の量を一定の基準に従って計算し、数字で表したものである。単位数は科目によって異なる。

単位数は、「大学設置基準」に基づき、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業による教育効果と授業時間外に必要な学修（自学自習・学力増強講義等）を考慮して設定されている。

■鶴見大学歯学部における単位の計算基準は次のとおり定めている。

〔講義・演習科目〕15時間から30時間までの授業と自学自習をもって1単位とする。

〔実習・実技科目〕30時間から45時間までの授業と自学自習をもって1単位とする。

学修時間には、予習・復習等、授業外での自主的な学習が含まれるので、学生は、授業を受講するにあたり、授業計画表（シラバス）を参照し自主的に予習・復習を行うこと。